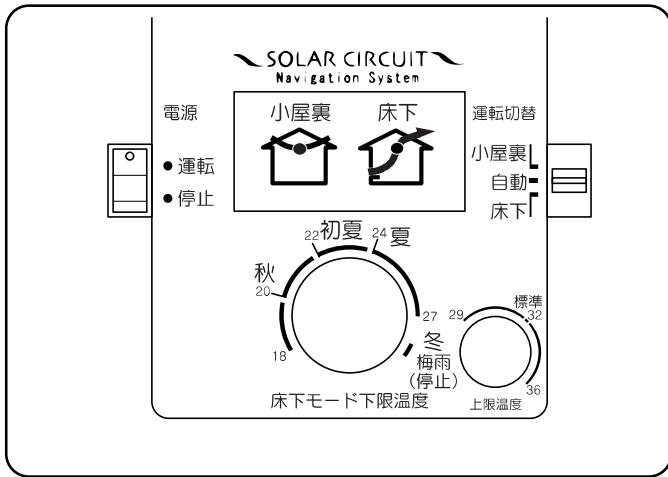


ソーラーサーキットの家

ソーラーサーキット ナビゲーションシステム (SC ナビ)

取扱説明書

お客さま用



もくじ

安全のために必ず守ること	2
はじめに	3
各部の名前	3
システムの機能	4
SCナビゲーターの機能	4
システムの動きと使い方	5
操作の目安	6
小屋裏給気口の使い方	7
お手入れ・点検	8
故障かな?と思ったら	11
アフターサービス	13
主仕様	14

- この取扱説明書は、システムを正しく安全にお使いいただくために、ご理解いただきたいことを説明しておりますので、最後までよくお読みください。
- なお、ご使用前に「安全のために必ず守ること」を確認して、正しくお使いください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
- この製品は日本国内用ですので、日本国外では使用できず、またアフターサービスもできません。

This appliance is designed for use in Japan only and can not be used in any other country.

No servicing is available outside of Japan.

お客さま自身では据付けしないでください。(安全や機能の確保ができません)

■安全のために必ず守ること

・誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で区分して説明しています。

 警告		 注意	
誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの		誤った取扱いをしたときに軽傷または家屋・家財などの損害に結びつくもの	
 <p>禁止</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ガス漏れに気付いたときは、SCナビゲーターの電源、ダイヤル、運転切替操作はしない 爆発・引火の原因。 	 <p>禁止</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●本体に異常な振動が発生した場合は使用しない 本体・部品の落下によるけがの原因。
 <p>水ぬれ禁止</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●製品に直接水やお湯、かび取剤などをかけない ショート・感電の原因。 	 <p>禁止</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●高温(40℃以上)や直接炎のあたるおそれのある場所や油煙・有機溶剤・可燃性ガスのある場所では使用しない 火災の原因。
 <p>分解禁止</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●改造や工具を必要とする分解はしない 火災・感電・けがの原因。 分解・修理は修理技術者のいる販売店にご相談ください。 	 <p>接触禁止</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●運転中は危険ですから、SC小屋裏ファンの羽根や床下ダンパーの中に指や物をいれない けがの原因。
 <p>指示に従う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●お手入れの際は必ず分電盤のブレーカーを切る 感電・やけがの原因。 	 <p>風呂・シャワー室での使用禁止</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●浴室など湿気の多い場所では使用しない 感電・故障の原因。
	<ul style="list-style-type: none"> ●交流 100V を使用する 火災・感電の原因。 	 <p>指示に従う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●電気工事は必ず電気工事店に依頼する 感電の原因。
	<ul style="list-style-type: none"> ●異常・故障時には、直ちに使用を中止する 発煙・発火・感電・けがの原因。 <p>〈異常・故障例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●スイッチを入れても羽根が回転しない。 ●回転中に異常音や振動がする。 ●回転が遅いまたは不規則である。(モーターはメンテナンスが必要な部品です。) ●こげ臭いにおいがする。 ●本体据付部に腐食・破損などがある。など <p>※すぐに分電盤のブレーカーを切って、販売店へ点検修理を依頼してください。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ●お手入れ後の部品の据付けは確実に 落下によるけがの原因。 ●お手入れの際は手袋を着用する けがの原因。 ●長期間使用しないときは、必ず分電盤のブレーカーを切る 絶縁劣化による感電・漏電火災の原因。
 <p>アース確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●アースが取付けられているか確認する(床下ダンパー) 故障や漏電のとき感電の原因。 アースの取付けは工務店・電気工事店にご相談ください。 	 <p>お願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●スプレー(殺虫剤・整髪用・掃除用)などをSCナビゲーターなどのプラスチック部分にかけないでください 部品の変質・破損の原因。 ●床下ダンパーの屋外グリル部はネジで閉めておいてください 挟まれてけがの原因。

お願い

- 台風時など床下浸水が予想される場合には漏電のおそれがありますのでSCナビゲーターの電源を切ってください(床下ダンパー閉鎖)。なお床下ダンパーを閉鎖しても浸水を防ぐことはできません。
- 床下浸水があった場合は部品の交換が必要です(工務店・工事店にご相談ください)。
- 雪で床下ダンパーがふさがりやすい場合は、雪が浸入しないような処理をしてください。
- 使用可能な周囲温度条件(-10~40℃)以外のところに据付けられていないか確認してください。
- 温度センサーの近くに発熱機器や高温の排気口など温度感知の障害となるものを設けないでください。

■はじめに

ソーラーサーキットナビゲーションシステム（略称：SC ナビ）は、建物に断熱性を付加するとともに、気密性と通気性という相反する機能を屋外の気温に応じて使い分ける「外断熱・二重通気工法」です。SC ナビは、冬季は断熱・気密構造による保温性、夏季は断熱・通気構造による遮熱・排熱性によって、日々の気候変化による屋内の温度変化をより穏やかにすることができます。

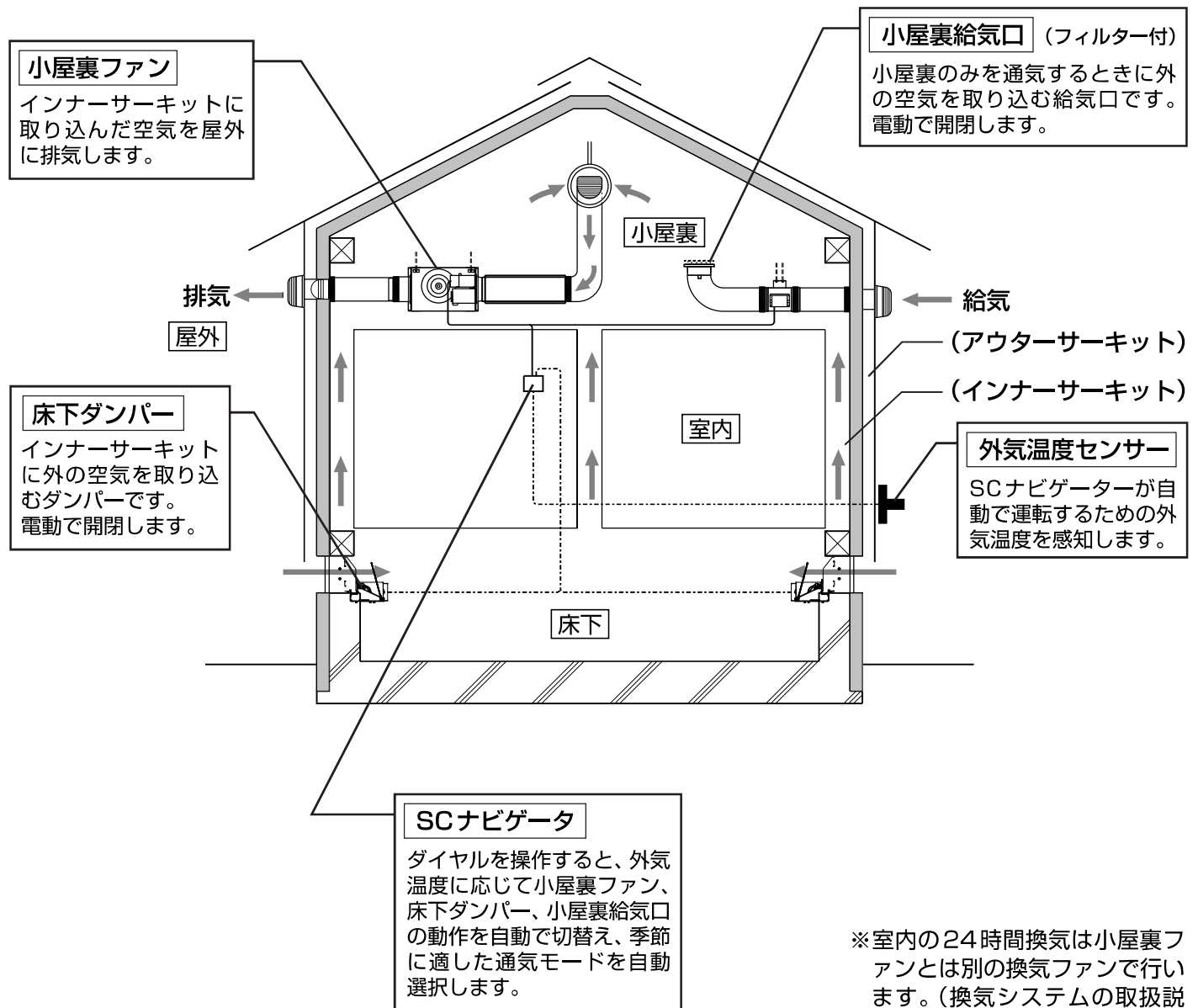
外気温度センサーで
気密性と通気性を
使い分け

外断熱・二重通気工法

敷地周辺の
温度に応じて
自動で開閉

■各部の名前

（本書は通気システム部分の操作を説明しています）



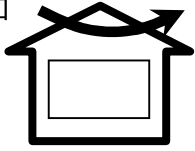

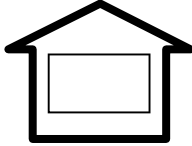
※室内の24時間換気は小屋裏ファンとは別の換気ファンで行います。（換気システムの取扱説明書をお読みください。）

■システムの機能

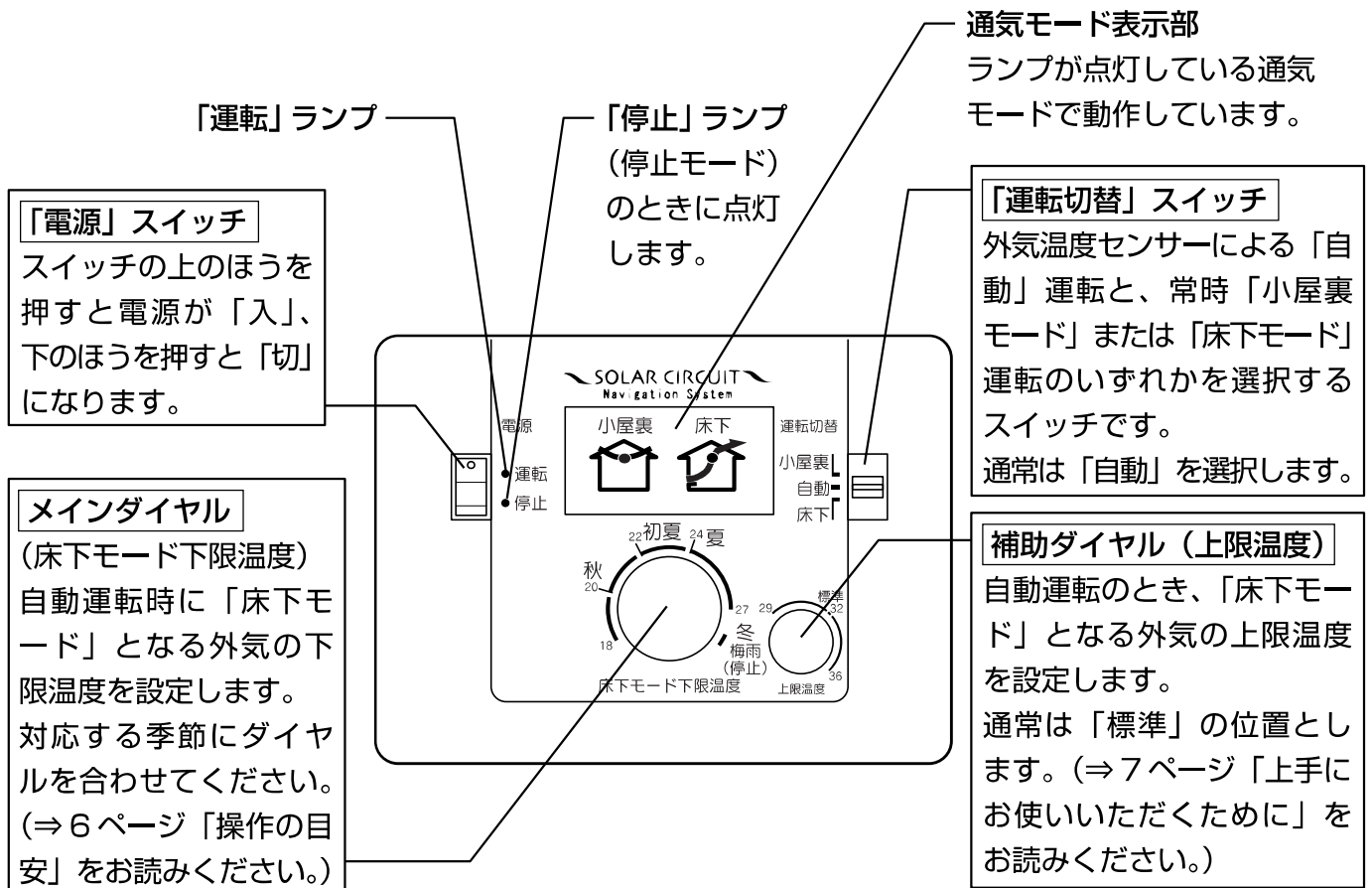
SCナビゲーターに接続されている温度センサーで外の気温を感知して、小屋裏ファンの運転や床下ダンパー、小屋裏給気口の開閉を自動で行い、寒いときには建物の気密性能を高めて建物から熱が逃げるのを抑え、暑いときには通気性能を高めて建物内部にこもった熱を排出します。

SCナビゲーターのダイヤルを季節ごとに操作して、通気モードの自動切替のタイミングを調整します（*マニュアル操作による通気モードの切替も可能です。7ページ「マニュアル運転」をお読みください）。

表一通気モード

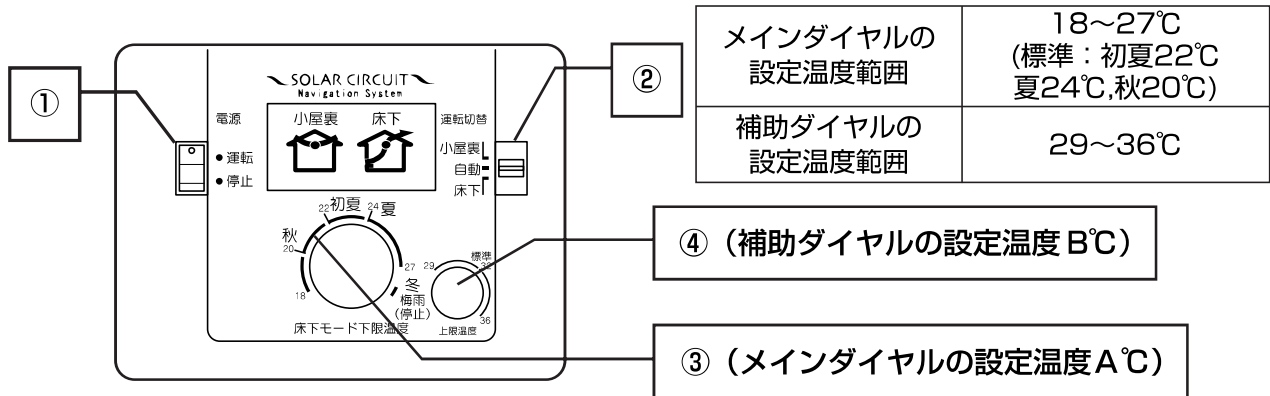
<p>(小屋裏モード) 小屋裏の通気性を高める。 小屋裏給気口 開放</p>  <p>小屋裏ファン 弱運転</p>	<p>(床下モード) 床下から壁内、小屋裏の通気性を高める。 床下ダンパー 開放</p>  <p>小屋裏ファン 強運転</p>
<p>(停止モード) 建物の気密性を高める。 小屋裏給気口 閉鎖</p>  <p>小屋裏ファン 停止</p> <p>床下ダンパー 閉鎖</p>	

■SC ナビゲーターの機能



■システムの動きと使い方

運転切替スイッチを「自動」運転とする場合の動きを例にとって説明しています。



<p>①電源を入れます。 運転または停止のいずれかの赤いランプが点灯します。 (電源を切ると、床下ダンパー、小屋裏給気口は閉鎖、小屋裏ファンは停止します)</p>	<p>②運転切替スイッチを「自動」にあわせます。 (「小屋裏」「床下」とすると外気温度に関係なく選択したモードで常時運転します)</p>	<p>③メインダイヤルを現在の季節に合わせます。 説明のためこのときの設定温度はA℃とします (⇒6ページ「操作の目安」参照)</p>	<p>④補助ダイヤルを標準に合わせます。 説明のためこのときの設定温度はB℃とします (⇒6ページ「操作の目安」7ページ「上手にお使いいただくために」参照)</p>
---	--	---	--

以下のように外気温度の変化にあわせて、通気モードが自動で切り替り、そのときの通気モードがランプで確認できます。

外気温度 18℃未満	18℃ ~ A℃未満	A℃ ~ B℃未満	B℃ ~36℃未満	36℃以上
---------------	---------------	--------------	--------------	-------


















<p>停止モード (赤色ランプ点灯)</p> <p>通気をとめて暖かさが逃げないようにします</p>	<p>小屋裏モード (緑色ランプ点灯)</p> <p>床下が冷えすぎないように小屋裏のみを通気します</p>	<p>床下モード (緑色ランプ点灯)</p> <p>床下から小屋裏まで通気して熱ごもりを緩和します</p>	<p>小屋裏モード (緑色ランプ点灯)</p> <p>床下のひんやりを逃がさないように小屋裏のみを通気します</p>	<p>停止モード (赤色ランプ点灯)</p> <p>異常に暑い外気の取り込みを防ぎます</p>
--	--	---	--	---

注意


- 運転切替スイッチを操作した場合、通気モードの切替えまでに約1分かかる場合があります。
メインダイヤル、補助ダイヤルを操作した場合は、通気モードはすぐには変わらないことがあります。
- メインダイヤルを「冬」「梅雨」(停止)の位置に設定すると、外気温度によらず停止モードを維持します。
- 停電時は、小屋裏ファン停止、小屋裏給気口閉鎖となりますが、床下ダンパーは停電時点の状態のままです。通電後は、そのときの切替スイッチの状態に応じた運転となります。

■操作の目安

自動運転（外気温度によるモード切替運転）

操作時期と考え方	ダイヤルなどの操作	通気モードのうごき (外気温度)	
<p>《5月頃～》 昼間に暑さを感じるようになったころ</p> <p>温度が低い外の空気を床下に入れず、温度があがりやすい小屋裏から通気をはじめます。</p>	<p>電源を入れてください ・メインダイヤル→「初夏」 (設定 22℃) ・補助ダイヤル→「標準」 (設定 32℃) (⇒8ページ「システム動作点検・電源「入」時の動作確認」に従い動作確認を行います。)</p>	(18℃以下) 停止モード	
		(18～22℃) 小屋裏モード	
		(22～32℃) 床下モード	
<p>《6月頃～》 梅雨入り後（長雨のとき） 外の温度が不安定なので 停止モードとします</p>	<p>・メインダイヤル→「梅雨・停止」 (⇒7ページ「上手にお使いいただくために」参照)</p>	停止モード (常時)	
<p>(長雨にならないとき) まだ温度が低い床下への通気を少なくして、温度があがりやすい小屋裏を排熱する「小屋裏モード」の時間を多くします。</p>	<p>・メインダイヤル→「27」 (設定 27℃) ・補助ダイヤル→「標準」 (設定 32℃) (⇒7ページ「上手にお使いいただくために」参照)</p>	(18～27℃) 小屋裏モード	
		(27～32℃) 床下モード	
		(32～36℃) 小屋裏モード	
<p>《7月中旬頃～》 梅雨明けしたあと</p> <p>建物の排熱を行う「床下モード」を基本にします。</p>	<p>メインダイヤル→「夏」 (設定 24℃) ・補助ダイヤル→「標準」 (設定 32℃)</p>	(18～24℃) 小屋裏モード	
		(24～32℃) 床下モード	
		(32～36℃) 小屋裏モード	
		(36℃以上) 停止モード	
<p>《9月頃～》 秋雨の時期が過ぎたあと</p> <p>乾燥した外の空気を床下から取り込む「床下モード」の運転時間を多くします。</p>	<p>メインダイヤル→「秋」 (設定 20℃) ・補助ダイヤル→「標準」 (設定 32℃)</p>	(18℃以下) 停止	
		(18～20℃) 小屋裏	
		(20～32℃) 床下	
<p>《10月頃～》 寒くなり昼間でも停止モードになる頃。</p>	<p>電源を切ってください。 (⇒9ページ「システム動作点検・電源「切」時の動作確認」に従い動作確認を行います。)</p>	-	

マニュアル運転（外気温度によらない通気モード固定運転）

操作時期と考え方	ダイヤルなどの操作	通気モードのうごき (外気温度)	
<ul style="list-style-type: none"> ・台風、雷雨で風雨が強いとき ・異常気象で長雨のとき ・濃霧、屋外の煙や悪臭が発生しているとき 	・メインダイヤル→「梅雨・停止」	停止モード (常時)	
<ul style="list-style-type: none"> ・システム動作点検時 	運転切替→「小屋裏」	小屋裏モード (常時)	
<ul style="list-style-type: none"> ・システム動作点検時 ・建物完成後にコンクリートや建材などの乾燥を促すとき 	運転切替→「床下」	床下モード (常時)	

上手にお使いいただくために

- ・外気を取り入れたくないとき（台風・雷雨・濃霧時、近隣からの煙、悪臭、異常気象による長雨など）には、メインダイヤルを「停止」または電源 OFF にしてください。
- ・建物が完成してしばらくの間は、床下のコンクリートや室内の塗り壁などの乾燥に伴い、水蒸気の発生が多くなります。冬季を除き運転切替スイッチを「床下」に切り替えて床下に湿気が滞留しないようにしてください。ただし長雨のときは運転を停止（床下を閉じる）してエアコンの除湿機能や除湿機で室内の除湿をしてください。
- ・台風時など床下浸水、小屋裏給気口からの雨水の浸入が予想される場合には SC ナビゲーターの電源を切ってください。
- ・停止ランプが常時点灯する冬は、必ず電源を切ってください。
- ・このシステムは建物の断熱による保温や遮熱、通気による排熱、乾燥を促すシステムであり、カビ、結露の発生を完全に排除することや、お客様個人の温冷感の快適性を保証するものではありません。暖冷房機器を必要に応じて併用してください。
- ・外気温度センサーに直射日光が長い時間当たる場合は、補助ダイヤルを標準（32℃）より 1～2℃程度高く設定してください。

■小屋裏給気口（給気レジスター）の使い方

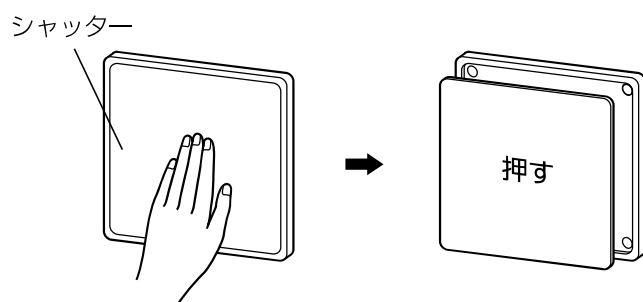
- ・通常は全開状態で使用します。
- ・台風など外風が強い場合や水滴が入るおそれのある場合は、SC ナビゲーターの電源を切るか、メインダイヤルを「停止」にして給気レジスターから水の浸入がないようにします。
- ・シャッター表面は使用環境条件により結露が発生することがあります。シャッター表面に結露が発生した場合、水滴はふき取ってください。

(全開のしかた)

シャッター開閉調節は閉鎖状態から中央にある「押す」表示部を押すことで全開となります。

(参考) 全開状態から中央にある「押す」表示部を押すことで段階的にシャッターは閉鎖になります。

全開の場合



■お手入れ・点検

システム動作点検とあわせて、外気温度センサー、床下ダンパー、小屋裏給気口、屋外フードの日常点検をお願いします。

警告

お手入れの際は、分電盤のブレーカーを切ってください（通電状態では感電やけがをすることがあります）。

注意

お手入れの際は、手袋を着用してください（着用しないとケガの原因となります）。

お手入れの際は、足元が不安定な状態で部品の着脱および清掃は行わないでください（転倒によりけがをすることがあります）。

お願い

- 床下ダンパー、小屋裏ファン、小屋裏給気口のメンテナンスが可能な点検口の確保をお願いします。
- 塩害地域でご使用になる場合は、錆による部品交換が一般地域よりも多くなります。
- 長年ご使用の機器は、工務店に点検を依頼してください。

●システム動作点検

(電源「入」時の動作確認)

初夏になってSC ナビゲーターの電源を「入」にして、システム運転を開始した時は、以下の確認動作をお願いします。

- 1) 運転切替スイッチを「床下」に設定します。システムは以下の動作となります。

運転ランプ／床下ランプ	点灯	
小屋裏ファン	強運転	小屋裏ファンの近くで送風音を確認
小屋裏給気口	閉鎖	閉鎖時にカシャッと瞬間的な音を確認
床下ダンパー	開放	床下からの動作音確認または外部からの目視確認

- 2) 次に運転切替スイッチを「小屋裏」に設定すると、システムは以下の動作となります。

運転ランプ／小屋裏ランプ	点灯	
小屋裏ファン	弱運転	小屋裏ファンの近くで送風音を確認
小屋裏給気口	開放	開放時の小さくカチッという音を確認
床下ダンパー	閉鎖	床下からの動作音または外部からの目視確認

- 3) 運転切替スイッチを「自動」に設定し、メインダイヤル（床下モード下限温度）を右いっぱいに回します。

- 4) 停止ランプが点灯し、停止モード（床下ダンパー閉鎖、小屋裏ファン停止、小屋裏給気口閉鎖）となります。
- 5) メインダイヤル（床下モード下限温度）を「初夏」（初夏でない場合は、操作時期に合わせる）に設定し、補助ダイヤル（上限温度）は「標準」に設定する。

注意

運転切替スイッチを操作する場合、通気モードが変化するまでに約1分かかる場合があります。

（電源「切」時の動作確認）

冬が近づき電源を「切」にした時には、床下ダンパーが閉鎖していることを建物外部（または近くの床下点検口）から目視でご確認ください。

注意

床下ダンパーの屋外側のグリル部はあけないでください。はさまれてケガをするおそれがあります。

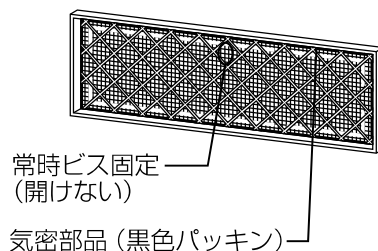
●床下ダンパーのお手入れのしかた

日常点検では、屋外のグリル部（ステンレスメッシュの扉）部分に大きなごみや、多量のホコリが付着している場合、グリルの屋外面からやわらかい毛先のブラシなどで取り除きます。この際、SCナビゲーターの電源を「切」にして床下ダンパーを閉鎖し、多量のホコリが床下に入らないようにしてください。

お願い

気密部品の交換目安は5年です。工務店に依頼してください（屋外のグリル部はあけないでください。はさまれてケガをするおそれがあります）。

芝刈り機などを近くでお使いのときは、ゴミが噛みこまないよう床下ダンパーを閉鎖してください。異物の噛みこみを発見したときは工務店までご相談ください。また高圧洗浄水によるお手入れは破損の原因となりますのでおやめください。



（図グリル部外観）

●SC ナビゲーターのお手入れのしかた

表面の汚れは、乾いた布で拭き取ってください（濡れた布は感電の原因となります）。清掃の際には、SCナビゲーターの電源を停止してから行ってください。

お願い

- お手入れに下記の溶剤等を使用しないでください（変質・変色する原因になります）。

シンナー・アルコール・ベンジン・ガソリン・灯油・スプレー・アルカリ洗剤・化学ぞうきんの薬剤・クレンザー等けんま材入の洗剤など。

●外気温度センサーのお手入れのしかた

大きなごみ、くもの巣などがセンサーに付着していたら取り除いてください。

その際、センサーに強い力が加わらないようにしてください（断線など故障の原因となります）。

センサーが高所に据付けられている場合は、工事店等へお手入れを依頼されることをおすすめします。

●小屋裏給気口（給気レジスター）のお手入れのしかた

給気レジスターにほこりが付着すると風量低下や異常音発生の原因になります。1年に1度を目安としてお掃除してください。

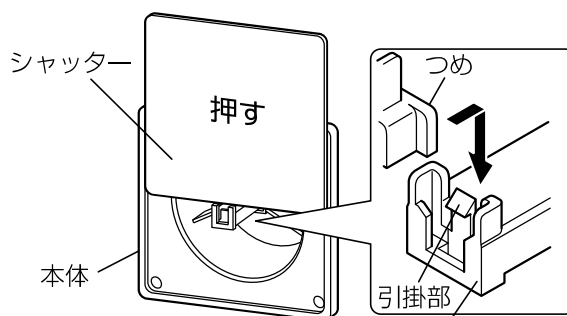
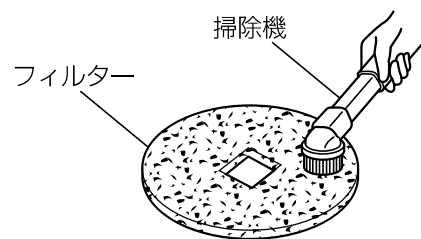
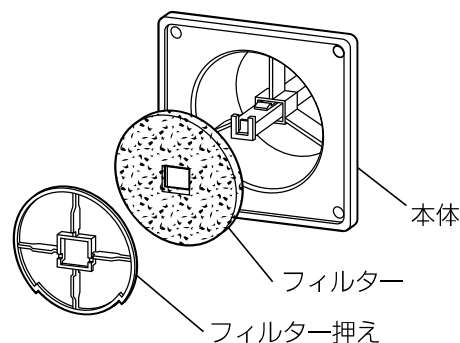
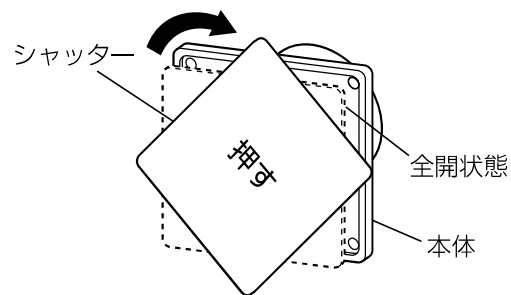
清掃の際には、SCナビゲーターの電源を停止してから行ってください。

お願い

- フィルターをはずす際に虫やほこりが落下する場合がありますのでご注意ください。
- 小さな虫が侵入する場合がありますので、屋外側は外灯などから離れた場所を選んでください。
- フィルターを入れ忘れると壁や天井が汚れる原因となりますので、フィルターを入れ忘れないようにしてください。
- お手入れに下記の溶剤等を使用しないでください（変質・変色する原因になります）。
シンナー・アルコール・ベンジン・ガソリン・灯油・スプレー・アルカリ洗剤・化学ぞうきんの薬剤・クレンザー等けんま材入の洗剤など。

（フィルター交換のしかた）

1. シャッターの中央にある「押す」表示部を押して全開にし、右または左45°程度まわしてはずす。
2. フィルター押えを手前に引いて取りはずす。
3. フィルターを取りはずす。
4. フィルターの清掃
 - 軽く手でたたか、または掃除機でほこりを吸い取ります。
 - 汚れのひどい場合は、水またはぬるま湯（40℃以下）に中性洗剤を溶かして押し洗いをし、よく乾かします。
 - 熱湯で洗ったり、もみ洗いは絶対におやめください。
 - 押し洗いをした場合は、よく乾かして十分に水気を取ってください。
 - 直接火にあてて乾かしたり、ドライヤーなどで温風をあてて乾かすことはしないでください。
 - フィルターは、水洗い5、6回を目安に別売の交換用フィルターと交換してください。（交換用フィルター適用形名P-18QRF）
5. パネルの汚れは、薄めた中性洗剤を浸した布で汚れをふき取り、さらに洗剤が残らないよう乾いた布でよくふき取る。
6. フィルター・フィルター押えを元通り据付ける。
7. シャッターのつめを本体の引掛部に上から差し込む。
 - シャッターは「パチン」と音がする位置まで下側に押し込んでください。



シャッター動作機構部
※シャッター動作機構部は分解しないでください。

●小屋裏ファン・小屋裏給気口（屋外フードのお手入れの仕方）

- 空気の取り入れまたは吹出し部分をふさぐようなゴミが付着していたら取り除く。
- フードが高所に据付けられている場合は、工務店等へお手入れを依頼されることをおすすめします。

お願い

高圧洗浄水によるお手入れは破損の原因となりますのでおやめください。

温度ヒューズの点検・交換（防火ダンパーP-18DUT-KNを設置している場合）

防火ダンパーの設置有無はお買上げの販売店・工事店にご確認ください。
点検・交換はお買上げの販売店・工事店に依頼してください。

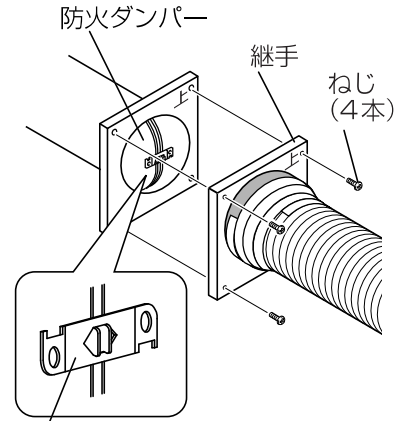
- 定期点検（1～2年程度）が必要です。
- 温度ヒューズは交換が必要な消耗品です。

※防火ダンパーはダクト配管からの延焼を防ぐ部品です。温度ヒューズは72℃以上で切れます。塩害地域、腐食性ガス・腐食性物質が発生する場所・地域では、著しく交換時期が短くなる可能性があります（1年以内）。

※温度ヒューズの表面に腐食が発生した場合は、温度ヒューズを交換してください。

●点検・交換の方法

- 1.ねじ4本をはずし、継手を取りはずす。
- 2.両方のダンパーを指ではさみ、温度ヒューズを据付ける。
（はさみにくいときは、ラジオペンチ等を使用してください）
- 3.継手を元通り据付ける。



温度ヒューズ
（サービス部品番号：M31623280）

■故障かな？と思ったら

次のような症状があれば点検してください。点検しても直らない場合、また下記以外の現象が生じた場合は、必ずブレーカーやSCナビゲーターの電源を切ってから直ちに建築を依頼した工務店にお申しつけください。

SC ナビゲーター

こんなとき	確認（原因）	処置
電源スイッチを「入」にしても、なにも点灯しない。	ブレーカーは「入」になっていま すか？ 停電ではありませんか？	解決しないときは工務店にご連絡 ください。
「通気モード表示部」の緑色ラ ンプが交互に点灯する。	（外気温度センサーが断線または外 れている）	工務店にご連絡ください。
「停止」ランプ（赤色）が常時 点灯している。	自動運転のとき ・メインダイヤルが「停止」位置 にありませんか？ ・外気温度が18℃未満、または 36℃以上では「停止」モードにな ります。	解決しないときは、工務店にご連 絡ください。
	マニュアル運転のとき （SCナビゲーターの故障の可能性 があります。）	
マニュアル運転にしても通気モ ードの表示が変わらない。	通気モードが切替わるまで最大1 分程度かかる場合があります。	解決しないときは、工務店にご連 絡ください。
頻繁に通気モード表示ランプ、 停止ランプが切り替わる。	自動運転では、設定温度付近で1 ～2分程度切り替わることがあり ます。	常に頻繁に切り替わるときは、SC ナビゲーターの故障の可能性があ ります。工務店にご連絡ください。

床下ダンパー

こんなとき	確認（原因）	処置
異常な動作音がする。 （大きな音、断続的な音など）	（故障の可能性があります。）	ブレーカーおよび SC ナビゲーターの電源を切り、すぐに工務店にご連絡ください。
焦げ臭いにおいがする。	（電気系統に異常がある可能性があります。）	
動かない。 （SC ナビゲーターは動作している。）	ブレーカーは「入」になっていませんか？ 停電ではありませんか？	
動くが完全に閉鎖しない。	（なにかが挟まっているか、閉鎖する部品が変形している可能性があります。）	工務店にご連絡ください。 （手を挟まれてケガをする可能性があるので手を触れないでください。）
頻繁に開閉する。	SC ナビゲーターの自動運転では、設定温度付近で 1～2 分程度切り替わることがあります。	常に頻繁に切り替わるときは、工務店にご連絡ください（SC ナビゲーターの故障の可能性）。

小屋裏ファン

こんなとき	確認（原因）	処置
異常な動作音がする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ファン内部にあるシャッターから、カラカラという音が聞こえるときがあります。 ・風が強いときにはファンがうなるような音が聞こえたり、屋外の排気フード近くに設置しているシャッターのパタパタという閉鎖音が聞こえるときがあります。 	違う音が聞こえる場合は、ブレーカーおよび SC ナビゲーターの電源を切りすぐに工務店にご連絡ください。
焦げ臭いにおいがする。	（電気系統に異常がある可能性があります。）	ブレーカーおよび SC ナビゲーターの電源を切りすぐに工務店にご連絡ください。

小屋裏給気口

こんなとき	確認（原因）	処置
異常な動作音がする。 （大きい音、連続する開閉音など）	電動シャッターが閉鎖するとき（小屋裏モードから床下モードに変わるときなど）には、閉鎖する音がします。	違う音が聞こえる場合は、ブレーカーおよび SC ナビゲーターの電源を切りすぐに工務店にご連絡ください。
焦げ臭いにおいがする。	（電気系統に異常がある可能性があります。）	ブレーカーおよび SC ナビゲーターの電源を切りすぐに工務店にご連絡ください。

お願い

近くで落雷があったときは、8、9 ページに記載の電源「入」「切」時のシステム動作確認を行って異常がないかを確認してください。

■アフターサービス

修理やお手入れのご相談やお問合せ

まず、建築を依頼した工務店へ、お申し付けください。

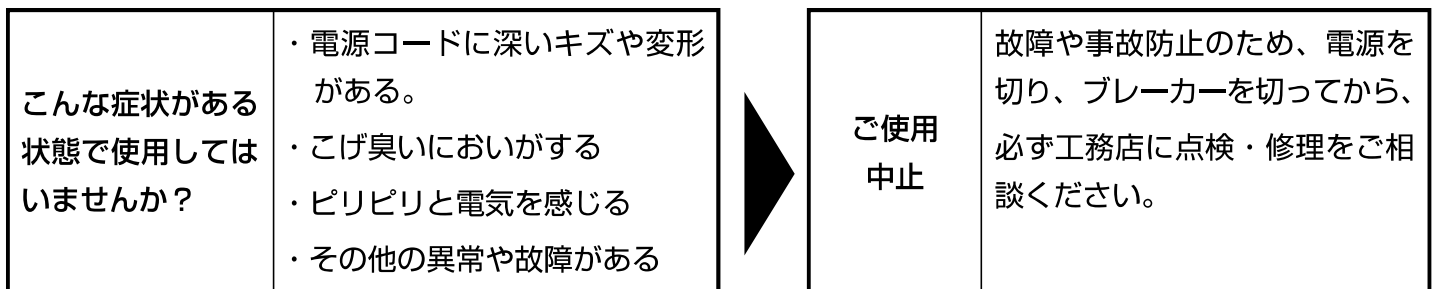
補修用性能部品の最低保有期間は

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後約6年です。
性能部品とは、その部品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるときは

- 故障かな？と思ったら（11、12ページ）にしたがってお調べください。
- 異常のあるときは、建築を依頼した工務店にご連絡ください。
修理すれば使用できる場合には、ご希望により修理させていただきます。修理料金は、技術料+部品代（出張料）などで構成されています。
- ご連絡いただきたい内容
 1. システム名：ソーラーサーキット ナビゲーションシステム
 2. 入居した時期：
 3. 故障内容（できるだけ具体的に）：
 4. 住所・名前・電話番号・付近の目印など

■長年ご使用の機器の点検をお願いします。



お客様メモ	入居した時期 年 月 日	工務店名 電話
-------	---------------------	----------------

■主仕様

・SCナビゲーター

形名	定格電圧・周波数	定格電流	出力電圧・電流
TS-100	AC100V 50 - 60Hz	3.5A	(床下ダンパー側) : AC100V 1.0A 以下 (小屋裏ファン側) : 共通-強間 AC100V 2.4A 以下 : 共通-弱間 AC100V 0.1A 以下 合計 3.5 A 以下

・床下ダンパー

形名	定格電圧・周波数	定格消費電力	定格電流	騒音(参考)	使用環境についての注意
P-23DE -KN-1	(電源線側) : AC100V (信号線側) : AC100V (定格周波数) : 50 - 60Hz	45W(50Hz) 33W(60Hz)	1.2A(50Hz) 0.75A(60Hz)	59 ± 3 dB (ダンパー開閉時に後方1m測定時リレー動作時の最大音)	塩害地域においては錆の発生による部品交換の頻度が一般地域より多くなる場合があります。

・小屋裏ファン(本体)

形名	定格電圧・周波数	定格消費電力
SC-RF	AC100V 50 - 60Hz	50W

・小屋裏給気口(中間取付電動シャッター)

形名	定格電圧・周波数	定格消費電力
P-18DUEQ3-KN	AC100V 50 - 60Hz	3.9 W (50Hz) 3.4 W (60Hz)

システム開発・資材供給

株式会社 ローラーサーキットの家

〒230-0051 横浜市鶴見区鶴見中央1-26-1 (横浜アーバンビル8階)
TEL:045-508-6640 FAX:045-508-6631 <http://www.schs.co.jp>